

三戸

大学生生活の実態は

三戸高生と弘大生が交流会

大学進学を考えている青森県

立三戸高(直町年行校長)の1、2年生と、地域おこし協力隊インターンシップ生として三戸町に滞在している弘前大教育学部

2年生による交流会がこのほど、町中央公民館で開かれた。高校生が大学生生活の実態や受験勉強のコツなどを質問し、将来の自分の姿への想像力を高めた。

交流会は、三戸高校コーディネーターを務める村田修子さんが企画して初開催。高校生約10人と、弘前大生の谷内里菜子さんと吉村小桃さんが参加した。

交流会で参加者たちは、「大学ってどんなところ?」「どうやって受験勉強した?」などをテーマに、高校生が抱くイメージと大学生として体験した実態を話し合った。

大学生は「授業の選択や日々の生活は自由だが、忙しい時もある」「受験勉強は集中できる自分なりのやり方を見つけることが大切」などと、自らの経験を高校生に伝えていた。

弘前大生と三戸高生が語り合った交流会

(熊谷勝之)



